

佳作

ぼくのお父さん

ぼくのお父さんは、ぼく達が住んでいる群馬県嬭恋村でキャベツ農家をしています。嬭恋村は、七月から十月の夏秋キャベツの生産量が全国トップの村です。

毎日、午前二時に起きて、ぼくがねている間に仕事へ出かけます。六月から十月の間は、午前三時ごろからキャベツを二個ずつ包丁で切り取り、箱につめて出荷しています。その他にも畑を耕したり、消毒や除草など夜おそくまで働いています。キャベツ一個作るにもたくさん作業があつて、大変な仕事だと思いました。毎日夜中から仕事をしているので、つかれているだろうなと思います。前かがみになってキャベツを切るのです、時どきこしも痛いようです。そして、お父さんのうでは、筋肉がいつばいでとても力強そうに見えます。それだけキャベツを作るという仕事は力仕事なんだと思いました。

お父さんが仕事から帰ってくる、とてもくさいです。それは、あせのにおいや土のにおい、キャベツのにおいが全部混ざったくさいにおいです。でも、くさいけれど一生けん命頑張ってくれているにおいだから、ぼくはその

群馬県

嬭恋村立西小学校 六年

黒岩 穰

においが大好きです。

そして、ぼくはお父さんが一生けん命作ったキャベツは、世界一おいしい最高のキャベツだと思っています。

今の時期お父さんは、仕事がいそがしくておやすみがありません。ご飯もいっしょに食べられないことが多いです。ちよつとさみしいなと思うことがあります。でも、少し休みの時間があると、お父さんはつかれているはずなのにぼくと遊んでくれたり、勉強で分らないところを教えてくださいます。それからお料理を作るのも上手です。時どきおいしい料理を作ってくれます。そしてお父さんはいつもじょうだんばかり言つて家族を笑わせてくれます。だからぼくはお父さんといると楽しいです。

いつもはずかしくてなかなか感謝の気持ち伝える事ができません。だけど、心の中では「お父さんありがとう、お父さんお仕事頑張つてね。」といつも思っています。今年の収かくが終つたら、直接言つてみようかなと思います。

お父さん、これからも健康に気をつけて頑張つてね。